

上古川泉水

(上古川)

上古川集落の北端に近い下条に、古くから泉水が湧いている。

上古川は、名前の通り、河川敷にできた村であった。一級河川小鴨川の左岸に位置し、古来から度々水害に遭遇している。

上水道の無い時代には、集落内の各所に湧水があり、半斗・水瓶に汲み置いて飲料水に使っていた。上古川は、作州往来の道筋で、国道が村の中を通っており、上古川泉水から東へ曲がっていた。旅人は、この泉水で口を潤したといわれる。

昭和62年（1987）ごろ「じげおこし」で故徳永勲・故箕原影明が中心となって泉を復元した。

当時は保健所での水質検査もパスし、飲料水としても良好との折紙つきであった。



(出典：『おがも谷上古川史』上古川自治公民館)